

らば、朝に夕に思は唯それのみに繁かるべくも、氏は却りて幸にして開日月を得たるを喜び、又々研究を重ねて、多少發明したる處あり、歸郷後再び活字製造にかゝつたが、成功の機運は未だ向はなんだ。

明治二年アメリカの宣教師が、美華書院を上海に設立して、活字をも製造すると聞き、門弟を上海に遣つて其法を問ひ合せたが、先方では秘して教へる事を肯んせぬ

恰好矣、當時重野安釋氏が、薩藩の爲上海から、活字を取り寄せたけれど、其用法が分らぬと云うて、庫中に抛やつて置くとの話を聞き込み、池原香榊と云ふ人を介して、ワシント

ンプレス一台、和洋活字二種一揃を薩藩から譲り受け、陽其二氏と共に、文撰をやるやら、機械を廻すやら、一生懸命に働いたが、まだ十分とは行かなかつた。

其後米國宣教師フルベツキ師の世話で、美華書院の印刷方を擔當して居つたガンフルと云ふ人を招聘して、活版と電氣版とを長崎に開いたが、是が日本に行はれた活字業の創りで、嘉永四年氏が活字製造を思ひ立ちしより、明治五年七月下谷和泉町に小さな活版所を開くに至るまで、殆んど二十余年、其苦心の度の如何なりしかは、今更らしく改めて云ふまい。

烏兎匆々忽ちにして又三十年、文運の進歩は直に印刷術の進運を促し、休む間もなき二十八ヶ(東京のみで)の大活版所を以つてして尙依頼者の望に應ずるに足らぬと云ふ程の、隆盛を來たして居るのである。只思ふ、日々の新刊書、新聞、雜誌、數を數ふるのみにても尙日の足らざるを虞るゝ程に多かるも、果して世を益し、人を利し、書、書の名に恥ぢず、新聞雜誌亦其目的に背かずして、よく此盛運を來たしつゝあるのではあ

らうかど。更に思ふ、無用の文字、有害の書、人を毒し世を害し、よしもなくとも、燕雜の文字を陳ね、平凡の説をのべて以つて、活字をして徒らに其勞に泣かしむが如きもの、果して今日の出版界に於いて見出し得ぬであらうかど。吾人は活字製造者の創業當時に於ける苦心に見、其意のある所を察するを得るや、杳に追想して其恩澤を謝すると共に、此編を終るに臨みて、自ら顧みて忸怩たらざるを得ないのである。

近最 社會百放談 終

明治三十五年二月九日印刷
明治三十五年二月十三日發行

社會百放談
定價參拾錢

編輯者兼 長谷川善作

印刷者 吉村源次郎
大阪市南區東清水町三百十一番屋敷

印刷所 山田活版所
大阪市南區安堂寺町二丁目廿六番屋敷

發行所 大阪心齋橋北詰

發行所 駸々堂

(電話東一〇七一)

有所權著作

新 版 豫 告

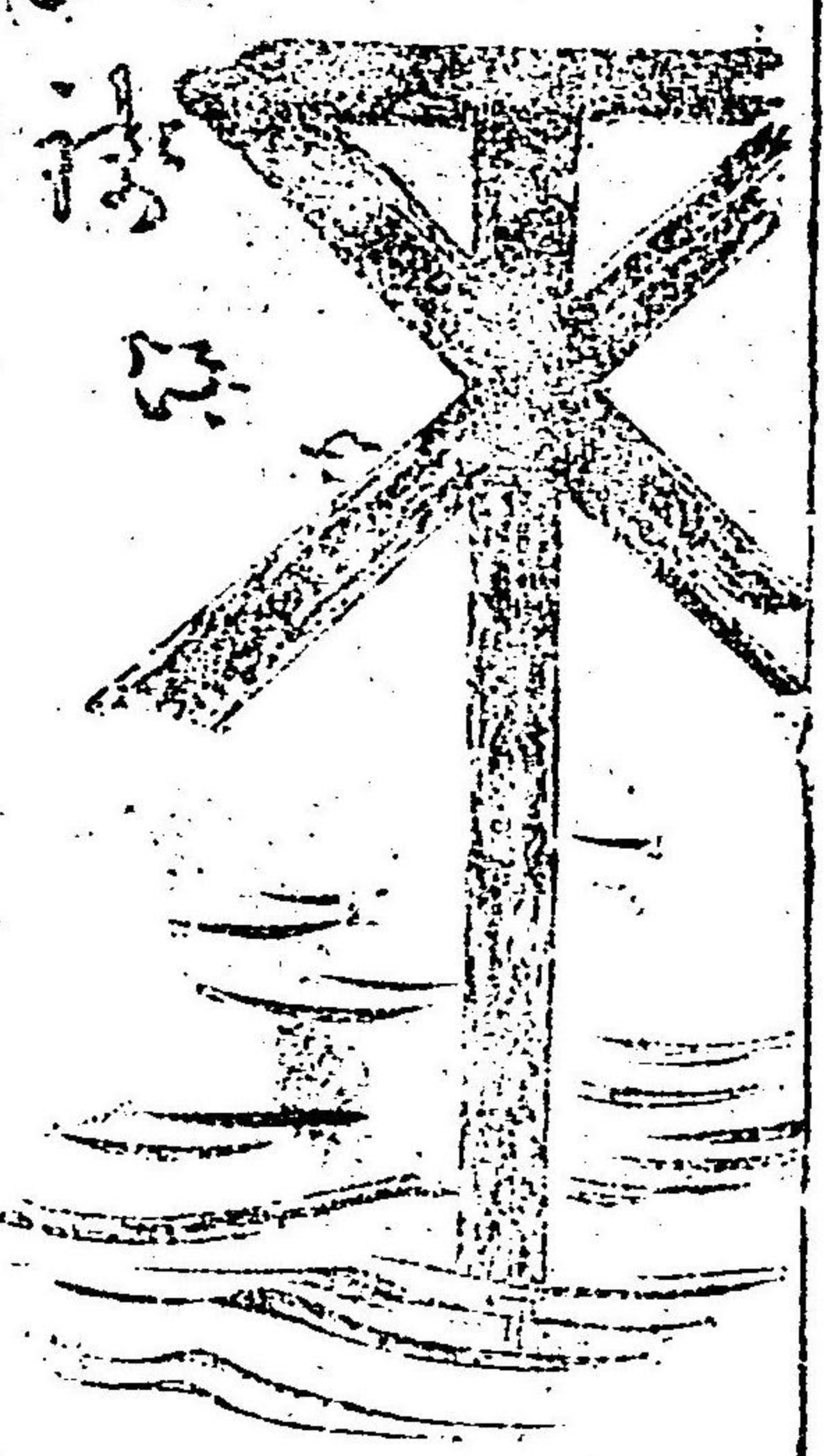
<p>▲ 小栗風業著 ▲ 小説 文金鳴田 全一冊</p>	<p>▲ 奴之助著 ▲ 小説 後の梁山泊 全一冊</p>	<p>▲ 奴之助著 ▲ 小説 ばら娘 全一冊</p>	<p>▲ 奴之助著 ▲ 小説 辨財天女 全一冊</p>	<p>▲ 水谷不倒著 ▲ 小説 現世相後編 全一冊</p>	<p>▲ 溪小舟著 ▲ 小説 たみ扇 全一冊</p>	<p>▲ 溪小舟著 ▲ 小説 遠千鳥 全一冊</p>	<p>▲ 溪小舟著 ▲ 小説 紅いちご 全一冊</p>
<p>▲ あさしく編 ▲ 菊池幽芳著 ▲ 小説 家庭葉第三編 全一冊</p>	<p>▲ 欠伸居士 ▲ 小説 白百合後編 全一冊</p>	<p>▲ 奴之助著 ▲ 小説 重ね 全一冊</p>	<p>▲ 天小外著 ▲ 小説 相摸業平 全一冊</p>	<p>▲ 霞小亭著 ▲ 小説 夢うつゝ 全一冊</p>	<p>▲ 霞小亭著 ▲ 小説 洗ひ髪 全一冊</p>	<p>▲ 霞小亭著 ▲ 小説 淀屋辰五郎 全一冊</p>	<p>▲ 白峰著 ▲ 小説 娘太平記 全一冊</p>

竹人上
 說者相
 水谷不倒著
 全價三拾七錢
 郵稅六錢
 大坂駿河堂
 發行



謝堂火完
 薄浦一著
 大坂心齋橋北橋
 駿河堂發行
 全價三拾七錢
 郵稅六錢

水谷不倒著
 竹人上
 說者相



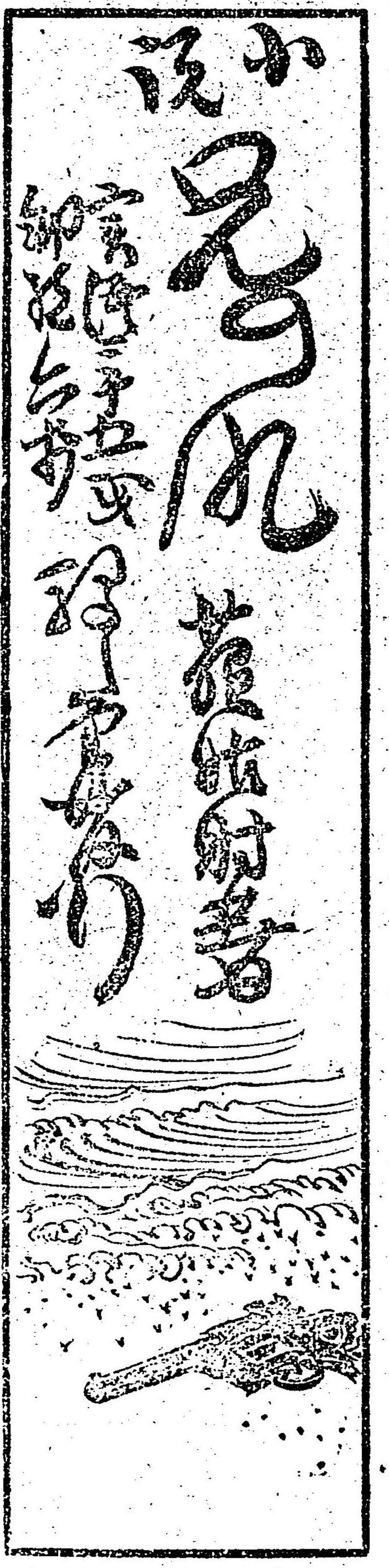


芥川龍之介著
母すゝめあり

定價金四拾錢 郵税金六錢 曠々堂發行



久伸居士著
小腕の疵
定價三拾五錢
郵税金四錢
曠々堂發行



小腕の疵
久伸居士著
曠々堂發行



小腕の疵
久伸居士著
曠々堂發行

あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん



あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん



あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん



あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん
あつちんちん



白石山房著
新聞志留子

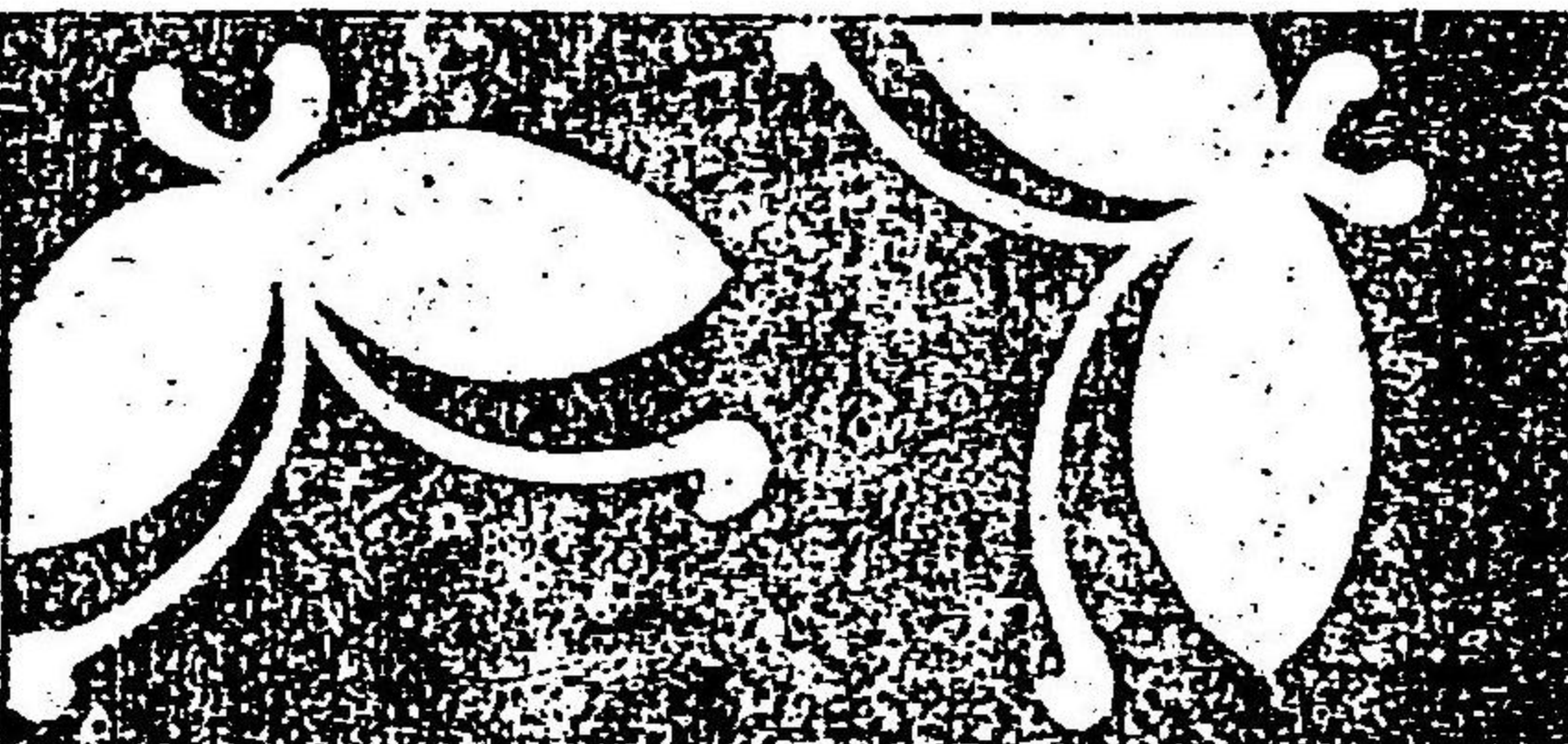
定價金卅五錢
郵稅六錢

駿々堂



白石山房著
根上り松

定價金卅五錢
郵稅六錢

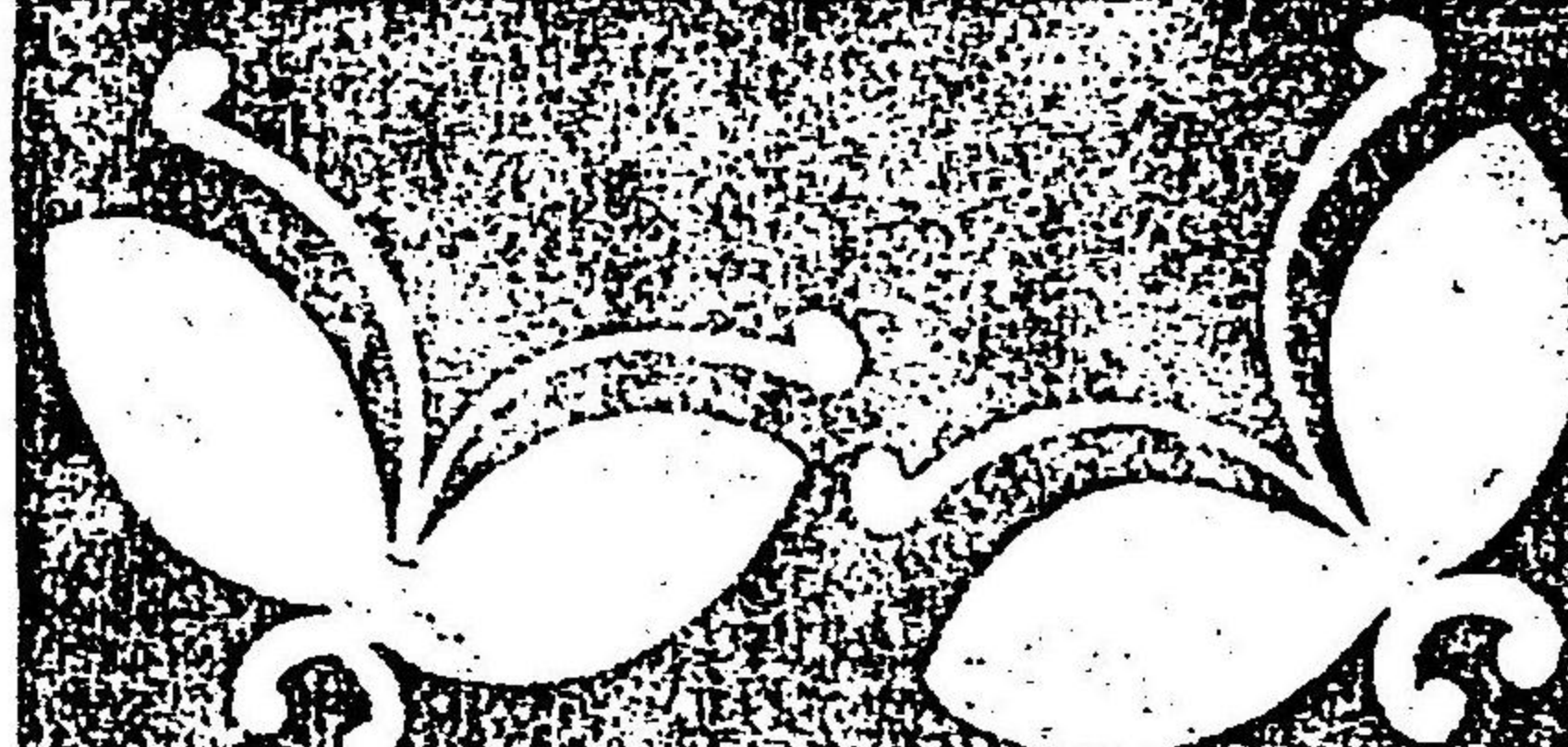


奴之助著
小雄蝶蝶蝶完

實價金卅錢
郵稅金六錢

發行所
大阪心齋橋北詰

駿々堂



小美少年

稻岡奴之介新作

發行所

大阪市南區
心齋橋北詰

駿々堂

定價金三十錢
郵稅料金六錢



叔之助著作

小説大暗殺完

實價金卅錢

郵稅六錢

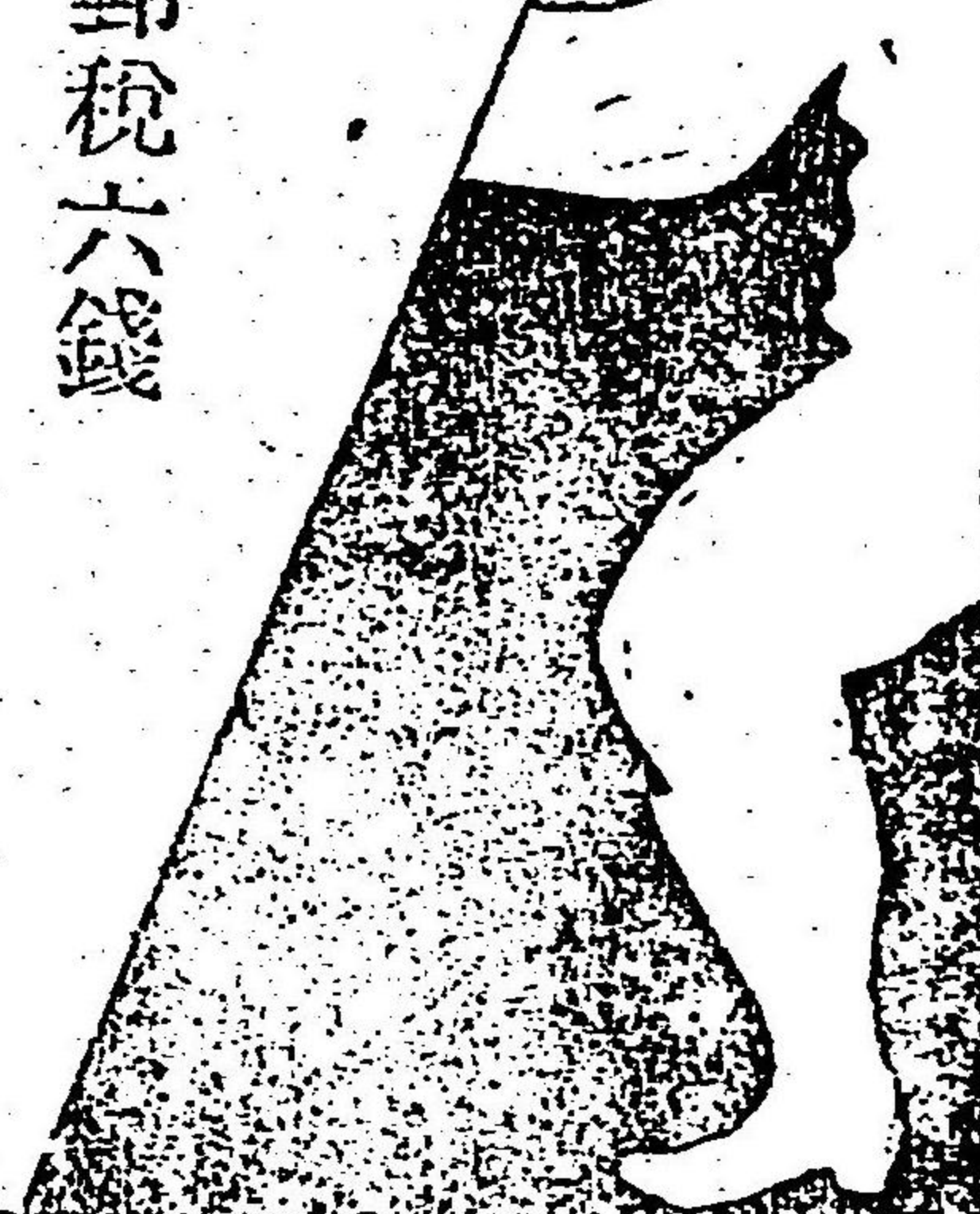
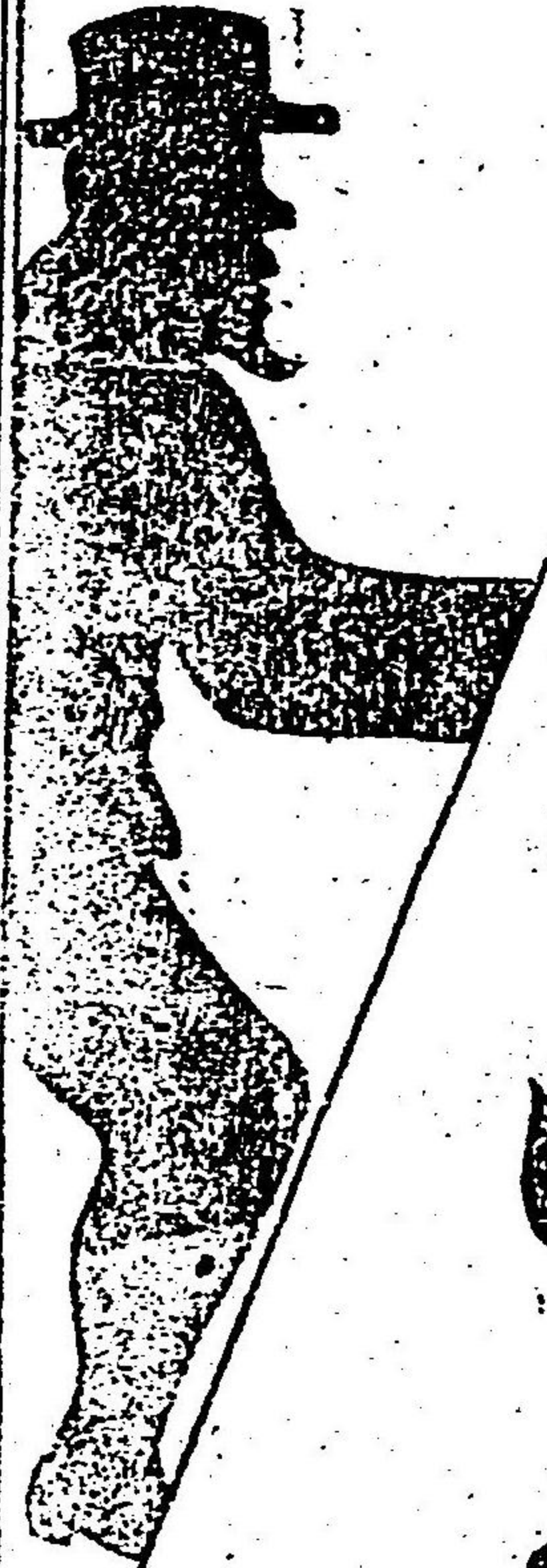
發行所

大阪心齋橋北詰

辰

久

堂



小説大暗殺完
叔之助著作
大阪辰久堂發行

正價金三十錢

郵稅六錢

欠

MISSING

大阪毎日
新聞社
あさしく編

異聞
奇話

瑣談片々

洋装美本
金文字入
實價金卅錢
郵送料四錢

瑣談片々は文明國と野蠻國とを問はず東西洋と南北洋を論ぜず
坤輿に國をなせる世界各地の風俗習慣草木氣象禽獸虫魚凡そ
天地人三才に渡れる森羅萬象の奇事異聞を網羅せるものなれば
讀みて面白く語りて興あり之を繕かば不知不識の間に大いなる
智識を得ると共に山の如き談話の種をその中より供給せらるべし

發行所

殿

々

堂

大阪心齋橋北詰八十六番邸

(電話東一〇七一番)

行發期定回一月每

雜誌

新百千鳥

講談

頁十五百二數紙入畫口色彩極を製美頗版菊切讀冊壹各
錢六册壹稅郵 錢拾參圓貳前冊十 錢五拾貳册壹價正

本書は古往今來に於ける壯快悲絶の材料を撰んで、これを得意の舌頭の上に、毎月一冊を期して版に上するもの讀むで面白いかどはお問ひなされるが野暮なり、訪るところにはあらねど弊堂が苦心の新百千鳥、殊に製本の美麗にして御讀料として御贈物用として、無類の好冊子、偽言と思召さば買つて見よへ

録目

- 第一編 菅野 礪一郎
- 第二編 徳川十五代記上の卷
- 第三編 徳川十五代記中の卷
- 第四編 徳川十五代記下の卷
- 第五編 花曇 中も 宵月
- 第六編 花 中 お梅
- 第七編 三河屋 幸三郎

堂々駿 所行發 (番一十七〇千東話電)

誌雜切讀集每

美菊版
製本類

民法小説

回發行一

錢二金稅郵 錢八金價定 冊一全
(共稅郵 錢五十九金前部十)

- 第一集 離婚の訴訟
- 第二集 後見の争
- 第三集 小作の争
- 第四集 親子の争
- 第五集 連帶の紛議
- 第六集 兄弟の紛争
- 第七集 保證の葛藤
- 第八集 準備の争訟
- 第九集 組合の争論

法律は社會の秩序を吾人々の權利を保護するものたるが故に社會に生息する人生は必ず之を知悉せざる可らず然れども由來法律なるものは復雜無味の學科なるを以て専門家に非ざる者は之を研究するに難厭たり弊堂之に見る處ありて民法小説なる一新書を發刊し其體を最も趣味ある小説に做らへて法律の意義を實例的に解説せり若し夫れ本書を讀むれば興味津津たる小説中に於て不詳の點に法律と人権の何者たるかを解するを得て一舉兩得の利益有べし毎號發售して一冊例を二冊に綴るを以て閑窓清娛の友として毎二の頁を信す請ふ愛讀を賜へ

堂々駿 所行發

誌 雜 切 讀 集 每

次 目

第十七集	第十六集	第十五集	第十四集	第十三集	第十二集	第十一集	第十集	第九集	第八集	第七集	第六集	第五集	第四集	第三集	第二集	第一集
土藏切江榮公	六人の死	金の指環	七人の指環	三筋の髪	天竺の刑	美人の髪	大蛇の美	稲妻の中	福富の事	暴徒の將	少年の將	生かたき	鬼皮美人	薄皮美人	鬼皮美人	薄皮美人
首	指	善手	暗火	地下鐵道の女賊	美人の短銃	風光の短銃	X光の短銃	幽霊の短銃	妖怪の短銃	蛇の短銃	情婦の短銃	拳銃の短銃	殺しの短銃	殺しの短銃	殺しの短銃	殺しの短銃
第五十一集	第五十二集	第五十三集	第五十四集	第五十五集	第五十六集	第五十七集	第五十八集	第五十九集	第六十集	第六十一集	第六十二集	第六十三集	第六十四集	第六十五集	第六十六集	第六十七集
可憐の美	谷中	新開	六甲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲	白雲

探偵小説

淀川の水淀み無く日夜に流れ、昨日の潮は今日の潮と、變る世の中に、倍變らぬは小説の趣向、男女の痴情に非ざれば、悪漢の奸計、悪魔の計略、標に依りて胡亂を盡く千篇一律、其名てう伊勢の流萩と變れ、筋はかはらぬ浪華の華、其根を洗ひ葉を新に芽を吐く一種向、他に類の無い探偵小説、奇想妙案神出鬼没、午睡の如に旅行の伴、内外嫌はぬ重寶品、紙数は毎頁百頁以上、代價は僅か銅貨八枚、之を買はぬは損、之を讀めば益、

菊版頗美本

一册定價金八錢

郵稅部前金八拾四錢

發行所 大阪心齋橋區南市阪大 (電話一七〇七番) 北詰

每號讀切 探偵雜誌

探偵文庫

每月一回 定日發行

探偵文庫は斬新奇絶なる材料を撰び、名家獨得の筆を以て綴られしもの、一たび巻を繰れば千奇万怪、山あるかと思へば海横はり、善人善ならずして、悪人悪ならず、變幻出沒、殆んど讀者が豫想の外に出づ、而して文辭の凄麗なる、亦坊間に散在する他の比にあらす、讀者若し爽快なる探偵談を味はんと欲せば、去つて文庫を見よ

裁 体

表紙は美術、石版寫眞版にて新奇意匠を凝せしもの、口繪は當代第一流の畫家の筆にたる極彩色の木版摺にて、菊版頗る美本なり、紙数は二百三十頁なり

定 價

一册 金貳拾五錢
拾册前金貳圓卅錢
廿册前金四圓卅錢
郵送料壹册金六錢

目 次

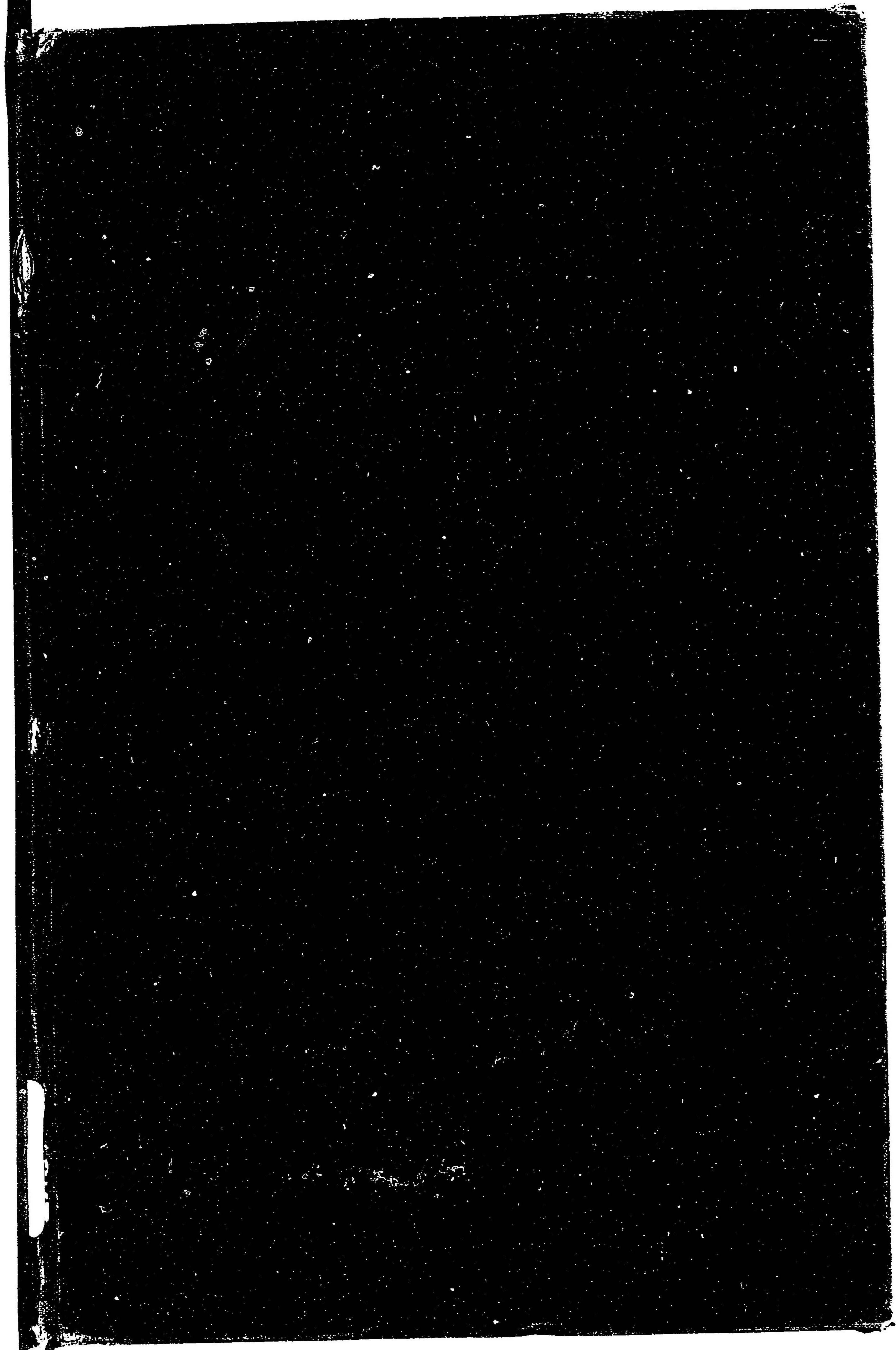
第一編	瀧夜叉阿仙	第十一編	瀧車強盜
第二編	監獄の變死	第十二編	鑛山の魔王
第三編	華族の變死	第十三編	可憐のお園
第四編	暗穴地獄	第十四編	數罪の探偵
第五編	慘殺事件	第十五編	伊吹時
第六編	西洋幽靈奇談	第十六編	二人探訪
第七編	晒し首	第十七編	夜及娘
第八編	妾の魂膽	第十八編	二人幽霊
第九編	秘密電報	第十九編	毒婦お花
第十編	盤若之面	第二十編	古茶箱

發行所

大阪心齋橋北詰 電話前千〇七十一番

駸々堂

93
113





039598-000-6

93-113

社会百放談

長谷川 善作/編

M35.2

BDA-0169

